

### 第3回 共同物流等の促進に向けた研究会 議事概要

日時：平成31年3月13日（水）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎第3号館 4階総合政策局 局議室

出席者：（有識者）矢野座長、納富委員、二村委員、一柳委員、北條委員、（ヒアリング事業者）アステラス製薬株式会社、ヤマト運輸株式会社

#### 【アステラス製薬株式会社からのプレゼン・質疑応答】

- ・リスク分散を各社でやるとコストがかかるため共同化が必要。また、メーカーが共同化すると、卸との関係でも新しい取組が可能。
- ・共同化のデメリットはほとんどなく、最初の手間に限られる。
- ・共同物流を実現するに当たって、標準化は非常に重要。また、医薬品の輸送についてBCP対策に課題があると認識。こうした取組は推進してもらいたい。
- ・GDPでは温度を常に管理することが重要とされているが、How toが書いていない。大手の手順を標準化して公表し、中小企業でも実践できるようにしていきたい。
- ・大臣賞などの受賞は社内の調整に役だった。物流総合効率化法の認定も効果は絶大だった。
- ・医薬品は、盗難や偽造薬の流入などが問題になっている。また、中身に問題が無くても段ボールに損傷があれば受け取ってもらえないなど、容器損傷に厳しい。

#### 【ヤマト運輸株式会社からのプレゼン・質疑応答】

- ・地域内の共同配送は、バーコードの貼り替え作業など、受託側の負担も大きく、一方で委託側もサービス規格のわずかな違いなどにより全ての配送を委託することができず、体制をゼロにできないのが課題。また、宅配だけの共同ではなく、買い物代行など物流以外の様々な「ラストマイル」のサービスを包括的に提供することが一つの社会に有効な方策と思料。
- ・消費者向けは検品がないので共同物流がやりやすいと思っていたが、荷物引き継ぎなど手間のかかる部分があることが分かった。サービスとして成立することが非常に重要。
- ・幹線輸送については共同化がトレンドとなりつつあるが、ラストマイルについては現在はまだ必ずしも共同化が既定路線ではないと思われる。
- ・館内配送について、オフィスとタワーマンションでは、不在があるかないかが大きく違う。また、マンションでは通常、荷さばきや預かりのスペースがないことも難しさの一つ。

### 【ヒアリング結果の報告と今後の検討の方向性を受けて】

- ・単純に横の連携だけでなく、縦の連携、標準化、モーダルシフトなど重要な点がよくわかった。
- ・意識の変革では、経営者への訴求が重要なのでその観点を入れるべき。
- ・規制の精査は重要な視点。また、大臣表彰が効果的であることを改めて認識。
- ・表彰は共同物流の経営層への認知に効果的ということなので、表彰を増やしてはどうか。
- ・共同物流によるメリットを明示的にガイドラインのようなものに記載できると良いのではないか。